

第2章 水質汚濁

第1節 公共用水域の水質汚濁の現況

県内の公共用水域について、水質汚濁防止法に基づく水質測定計画を定め、関係機関（建設省、鳥取市、倉吉市、米子市、船岡町、青谷町、岸本町）の協力を得て、水質の測定を行った。

対象水域の概要図は資料26に示す。

（測定対象公共用水域）

河川	千代川水系	千代川、旧袋川、孤川、山白川、天神川、湖山川、枝川、福井川、三山口川、野坂川、袋川、有富川、大路川、砂見川、八東川、私都川、佐治川、大江川、見槻川
	天神川水系	天神川、国府川、小鴨川、鴨川、玉川、絵下谷川、鉢屋川、三徳川、加茂川
	日野川水系	日野川、法勝寺川、板井原川、小松谷川、別所川
	二級河川	蒲生川、塩見川、河内川、勝部川、由良川、加勢蛇川、阿弥陀川、佐陀川
	斐伊川水系	旧加茂川、加茂川、大正川
湖沼	湖山池、多鯨ヶ池、東郷池、中海	
海域	美保湾、日本海沿岸	

1 人の健康の保護に関する項目〔健康項目〕

平成7年度は38河川103地点3,486検体、4湖沼15地点725検体及び2海域16地点564検体、合計134地点4,775検体について測定を行った。その結果、前年度と同様に全検体が環境基準に適合しており、調査を実施した県内の公共用水域は全水域とも清浄であった。

なお、検体数の算定についてはカドウム、シアン等の各項目を1検体として扱っている。

表47 人の健康の保護に関する環境基準（昭46 12.28 環境庁告示第59号）

項目	カドミウム	全シアン	鉛	六価クロム	砒素	総水銀	アルキル水銀	PCB
新基準値	0.01mg/ℓ以下	検出されないこと	0.01mg/ℓ以下	0.05mg/ℓ以下	0.01mg/ℓ以下	0.0005mg/ℓ以下	検出されないこと	検出されないこと
項目	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン	四塩化炭素	1,2-ジクロロエタン	1,1-ジクロロエチレン	シス1,2-ジクロロエチレン	1,1,1-トリクロロエタン
新基準値	0.03mg/ℓ以下	0.01mg/ℓ以下	0.02mg/ℓ以下	0.002mg/ℓ以下	0.004mg/ℓ以下	0.02mg/ℓ以下	0.04mg/ℓ以下	1mg/ℓ以下
項目	1,1,2-トリクロロエタン	1,3-ジクロロプロペン	チウラム	ジマジン	チオベンカルブ	ベンゼン	セレン	
新基準値	0.006mg/ℓ以下	0.002mg/ℓ以下	0.006mg/ℓ以下	0.003mg/ℓ以下	0.02mg/ℓ以下	0.01mg/ℓ以下	0.01mg/ℓ以下	

2 生活環境の保全に関する項目〔生活環境項目〕

河川 pH、BOD、SS、DO、大腸菌群数

湖沼 pH、COD、SS、DO、大腸菌群数、全窒素、全磷（注）用語の解説は資料

海域 pH、COD、油分、DO、大腸菌群数 33を参照のこと

(1) 概要

主要水域の水質汚濁状況の概要を生活環境項目の代表的指標であるBOD（河川に適用）又はCOD（湖沼、海域に適用）で見れば、次のとおりである。

（注）本白書では、BOD及びCODの評価について、環境基準の類型をあてはめている水域に対する環境基準の達成状況、又はその他の水域に対する基準相当類型の評価に関しては75%値（表50注を参照）を適用し、水質の汚濁状況、水質の経年変化等の評価には、年平均値を用いている。

《河 川》

一級河川（千代川、天神川、日野川）の水質は、おおむね下流部は環境基準に定める河川類型AA～A（表50参照、以下同じ）、上流部は河川類型AA～Aに相当しており千代川上流部を除き環境基準に適合している。

二級河川（蒲生川、塩見川、河内川、勝部川、由良川、加勢蛇川、阿弥陀川、佐陀川）について見ると、勝部川の一部に類型Eより悪い、由良川の一部に類型Bに相当する地点があるものの、他の地点はすべて類型AA～Aに相当しており、おおむね清浄な水質である。

都市河川のうち、鳥取市内を流れる旧袋川は河川類型A～C相当、倉吉市内の玉川は類型AA～Eより悪い、また米子市内の旧加茂川は類型A～Bに相当する水質であり 一部を除いていずれも依然として汚濁している。

《湖 沼》

湖山池はCOD（75%値）7.9～8.6mg/lで湖沼類型C～Cより悪いに相当、多鯰ヶ池は3.3～3.6mg/l（同B相当） 東郷池5.5～6.0mg/l（同C相当）といずれも池全体が汚濁しているが、中海は2.8～6.0mg/l（同A～C相当）と地点によって汚濁状況に幅がある。

また、全窒素、全磷については、湖山池は全窒素がVに相当し、全磷がV相当、東郷池は、全窒素がV相当、全磷がV相当、多鯰ヶ池は全窒素IV相当、全磷II～III相当、中海は全窒素が類型IV～V相当、全磷は類型IV～V相当であり いずれの湖沼も富栄養化している。

《海 域》

美保湾はCOD（75%値）0.8～1.8mg/lと海域の類型Aに相当しており、また、本県の日本海沿岸海域は0.9～1.4mg/l（同A相当）と全域ではば清浄な水質を保持している。

なお、県内の19海水浴場はすべて環境庁の判定基準による「水質AA～B」（「適」な水浴場）に該当している。

表48 BOD又はCODの概要及び環境基準適合状況

水 域 名	地 点 名	BOD又はCOD 年 平 均 値 (mg/l)	環 境 基 準 適 合 状 況				
			あてはめて い る 類 型	適 合 率 (%)	BOD又はCOD 75%値 (mg/l)	相 当 す る 類 型	
〔河 川〕 (一級河川) 千代川水系	千代川	賀 露	1.5	A	83.3	1.9	A
		行 徳	1.3	A	100	1.5	A
		源 太	1.0	AA	66.7	1.1	A
		稲 橋	1.0	AA	50.0	1.2	A
		佐 貫	1.4	AA	33.3	1.3	A
		市 瀬	0.9	AA	66.7	1.1	A
		毛 谷	0.6	AA	100	0.5	AA
	八 東 川	片 山	0.7	—	—	0.8	AA
		万 代 寺	0.8	—	—	0.9	AA
		岸 野	0.6	—	—	0.6	AA
	私 都 川	下 門 尾	0.8	—	—	0.9	AA
		佐 治 川	0.8	—	—	0.9	AA
	天神川水系	小 原	0.8	—	—	0.9	AA
		天 神 川	田 後	1.4	A	83.3	1.7

水域名	地点名	BOD又はCOD 年平均値 (mg/l)	環境基準適合状況			
			あてはめて いる類型	適合率 (%)	BOD又はCOD 75%値 (mg/l)	相当する 類型
天神川	小田原	1.1	A	96.4	1.3	A
		0.9	AA	83.3	1.0	AA
		1.1	AA	58.3	1.3	A
小鴨川	穴巖原	0.6	AA	91.7	0.6	AA
		1.1	—	—	1.2	A
		1.1	—	—	1.2	A
		1.1	—	—	1.2	A
三徳川	今西	0.6	—	—	<0.5	AA
		0.8	—	—	0.9	AA
加茂川	森	0.7	—	—	0.9	AA
		0.7	—	—	0.7	AA
日野川水系 日野川	皆生尾幡口庫榎下生矢福	0.9	A	100	1.0	AA
		1.1	A	96.7	1.2	A
		0.8	AA	75.0	0.9	AA
		0.9	AA	83.3	1.0	AA
		0.7	AA	91.7	0.9	AA
		0.7	AA	100	0.8	AA
		0.6	AA	100	0.7	AA
		0.6	AA	100	0.6	AA
		1.0	—	—	1.2	A
		1.0	—	—	1.1	A
法勝寺川	勝寺尾	0.6	—	—	0.6	AA
		0.6	—	—	0.6	AA
板井原川 (二級河川)	3地点	0.9~1.1	—	—	0.7~1.0	AA
		0.7~1.3	—	—	0.6~1.3	AA~A
		0.5~1.0	—	—	0.5~0.9	AA
		0.6~9.5	—	—	0.6~1.4	AA~Eより悪い
		1.3~2.1	—	—	1.5~2.6	A~B
		0.6~0.7	—	—	0.7~0.8	AA
		0.8~0.9	—	—	0.5~0.8	AA
		0.6~1.2	—	—	0.6~1.1	AA~A
		1.3~3.8	—	—	1.6~3.2	A~C
		0.6~1.3	—	—	0.6~1.3	AA~Eより悪い
〔湖沼〕	4地点	6.3~7.2	A	0	7.9~8.6	C~Cより悪い
		5.0~5.2	A	0	5.5~6.0	C
		3.2~3.4	—	—	3.3~3.6	B
〔海域〕	9地点	1.7~5.1	A	5.0~100	2.0~6.0	A~C
		0.8~1.7	A	75.0~100	0.8~1.8	A
日本海沿岸 海水浴場	7地点	0.9	B	100	1.0	A
		0.7~1.1	A	100	0.9~1.4	A
		0.9~3.1	(A)	33.3~100	1.1~6.3	A~C

(備考：海水浴場については、開設期間内に測定した「遊泳区域」の水質を示す。)

(注) 適合率(%) $\frac{\text{環境基準に適合した日数}}{\text{総測定日数}} \times 100$

75%値 適合率が75%以上の場合、環境基準に適合しているものとする。(環境庁通達)
年間のy個の日間平均値の全データを値の小さいものから順に並べた場合の(y×0.75)番目(その数が整数でない時は、真近上位の整数)の数値をいい、環境基準の水質類型あてはめに係る水質値を示す。

〔例〕A地点の測定値(平均値)が下記の場合

6.0 6.1 6.2 6.5 6.7 6.8 6.8 7.0 7.5 8.0

75%値=10×0.75=7.5→8番目の値 7.0

表49 全窒素、全磷の環境基準適合状況

水域名	あてはめている環境基準類型	環境基準適合状況						
		地点名	全窒素 年平均値 (mg/l)	環境基準 適合率 (%)	相当する 環境基準 類型	全磷 年平均値 (mg/l)	環境基準 適合率 (%)	相当する 環境基準 類型
湖山池	—	布勢地先	1 0		V	0.086		V
		堀越地先	0 93		V	0.077		V
		中央部	0 87		V	0.065		V
		松原地先	0.82		V	0.067		V
東郷池	—	下浅津地先	0 84		V	0.063		V
		中央部	0 84		V	0.066		V
		野花地先	0.86		V	0.064		V
		松崎地先	0.87		V	0.062		V
多鯨ヶ池	—	西部	0 58		IV	0.010		II
		東南部	0 58		IV	0.010		II
		北部	0 57		IV	0.011		III
中海	III 全窒素 0.4mg/l以下 全磷 (0.03mg/l以下)	境水道中央部	0 42	55 0 (90 0)	IV	0.041	25 0 (100)	IV
		渡町地先	0 51	41 7	IV	0.041	25 0	IV
		葭津地先	0 48	20 0 (95 0)	IV	0.047	20 0 (90 0)	IV
		米子湾中央部	0 76	0 (40 0)	V	0.085	0 (35 0)	V
		美保飛行場地先	0 46	33 3	IV	0.043	25 0	IV
		彦名町地先	0 60	16 7	IV	0.058	16 7	V
		旧加茂川河口地先	0 90	0	V	0.089	0	V
		境水道出口	0.31	83.3	III	0.033	41 7	IV
中浜港	0 51	25 0	IV	0.057	33 3	V		

(注) 評価方法 表層の年間平均値により行うものとする。(環境庁水質保全局長通達)

適合率 (環境基準に適合した検体数/総検体数) × 100

環境基準適合率の()は「第2期中海に係る湖沼水質保全計画」に定める平成10年度における水質目標値に対する適合率、適合状況である。

中海に係る湖沼水質保全計画水質目標値：全窒素0.65mg/l 全磷0.069mg/l

表50 生活環境の保全に関する環境基準（昭46.12.28環境庁告示第59号）

1 河 川

項目 類型	利用目的の適応性	基 準 値				
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数
AA	水道1級・自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1 mg/l 以下	25 mg/l 以下	7.5 mg/l 以上	50MPN/100ml 以下
A	水道2級・水産1級・水浴及びB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2 mg/l 以下	25 mg/l 以下	7.5 mg/l 以上	1,000MPN/100ml 以下
B	水道3級・水産2級及びC以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3 mg/l 以下	25 mg/l 以下	5 mg/l 以上	5,000MPN/100ml 以下
C	水産3級・工業用水1級及びD以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5 mg/l 以下	50 mg/l 以下	5 mg/l 以上	—
D	工業用水2級・農業用水及びE以下の欄に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8 mg/l 以下	100 mg/l 以下	2 mg/l 以上	—
E	工業用水3級・環境保全	6.0以上 8.5以下	10 mg/l 以下	ごみ等の浮遊が認められないこと	2 mg/l 以上	—

- (注)
- 1 自然環境保全 自然探勝等の環境保全
 - 2 水道 1級 ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 - " 2級 沈澱ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
 - " 3級 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
 - 3 水産 1級 ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
 - " 2級 サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
 - " 3級 コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用
 - 4 工業用水1級 沈澱等による通常の浄水操作を行うもの
 - " 2級 薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
 - " 3級 特殊の浄水操作を行うもの
 - 5 環境保全 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

2 湖沼（天然湖沼及び貯水量1,000万立方メートル以上の人工湖）

ア

項目 類型	利用目的の適応性	基 準 値				
		水素イオン濃度 (pH)	化学的酸素要求量 (COD)	浮遊物質量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数
AA	水道1級・水産1級・自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1 mg/l 以下	1 mg/l 以下	7.5 mg/l 以上	50MPN/100ml 以下
A	水道2、3級・水産2級・水浴及びB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3 mg/l 以下	5 mg/l 以下	7.5 mg/l 以上	1,000MPN/100ml 以下
B	水産3級・工業用水1級・農業用水及びCの欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5 mg/l 以下	15 mg/l 以下	5 mg/l 以上	—
C	工業用水2級・環境保全	6.0以上 8.5以下	8 mg/l 以下	ごみ等の浮遊が認められないこと	2 mg/l 以上	—

- (注)
- 1 自然環境保全 自然探勝等の環境保全
 - 2 水道 1級 ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 - 水道 2 3級 沈澱ろ過等による通常の浄水操作、又は、前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
 - 3 水産 1級 ヒメマス等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
 - " 2級 サケ科魚類及びアユ等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産3級の水産生物用
 - " 3級 コイ、フナ等富栄養湖型の水域の水産生物用
 - 4 工業用水1級 沈澱等による通常の浄水操作を行うもの
 - " 2級 薬品注入等による高度の浄水操作、又は、特殊な浄水操作を行うもの
 - 5 環境保全 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

イ

項目 類型	利用目的の適応性	基準値	
		全窒素	全磷
I	自然環境保全及びII以下の欄に掲げるもの	0.1mg/ℓ以下	0.005mg/ℓ以下
II	水道1、2、3級（特殊なものを除く） 水産1種 水浴及びIII以下の欄に掲げるもの	0.2mg/ℓ以下	0.01mg/ℓ以下
III	水道3級（特殊なもの）及びIV以下の欄に掲げるもの	0.4mg/ℓ以下	0.03mg/ℓ以下
IV	水産2種及びVの欄に掲げるもの	0.6mg/ℓ以下	0.05mg/ℓ以下
V	水産3種 工業用水 農業用水 環境保全	1mg/ℓ以下	0.1mg/ℓ以下

- (注) 1 自然環境保全 自然探勝等の環境保全
 2 水道1級 ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 水道2級 沈澱ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
 水道3級 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの（「特殊なもの」とは、臭気物質の除去が可能な特殊な浄水操作を行うものをいう。）
 3 水産1種 サケ科魚類及びアユ等の水産生物用並びに水産2種及び水産3種の水産生物用
 水産2種 ワカサギ等の水産生物用及び水産3種の水産生物用
 水産3種 コイ、フナ等の水産生物用
 4 環境保全 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

3 海域

項目 類型	利用目的の適応性	基準値				
		水素イオン濃度 (pH)	化学的酸素要求量 (COD)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	油分等
A	水産1級・水浴 自然環境保全及び B以下の欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	2mg/ℓ以下	7.5mg/ℓ以上	1,000MPN/100ml 以下	検出されないこと
B	水産2級・工業用水及び Cの欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	3mg/ℓ以下	5mg/ℓ以上	—	検出されないこと
C	環境保全	7.0以上 8.3以下	8mg/ℓ以下	2mg/ℓ以上	—	—

- (注) 1 自然環境保全 自然探勝等の環境保全
 2 水産1級 マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産2級の水産生物用
 " 2級 ポフ、ノリ等の水産生物用
 3 環境保全 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

(2) 水域別

⑦

ア 河川

(ア) 三大河川

○千代川水系

千代川は有富川との合流点（河口から約7km上流）から上流は河川類型AA、下流は類型Aの環境基準が指定されており、BOD（75%値）で見ると、7測定地点（類型AA水域5地点、A水域2地点）のうち4地点（類型AA水域4地点）が基準に適合しておらず、A類型に相当している。その他の項目について、それぞれの指定類型に対する環境基準適合率を見ると類型AAの水域ではDO100%、SS100%、大腸菌群数1.7%、類型Aの水域でDO87.5%、SS100%、大腸菌群数16.7%となっている。

各河川の水質の状況をBODについて見れば、千代川は0.6~1.5mg/lと清浄であり、千代川に流入する八東川、私都川、佐治川も0.7~0.8mg/lとおおむね清浄な水質を維持している。

水質の汚濁状況（BOD）を前年度と比較してみると、千代川及び流入河川である八東川、私都川、佐治川とも前年度に比べるとやや良くなっているが、この水系の水質の経年変化を見るとはば同程度である。

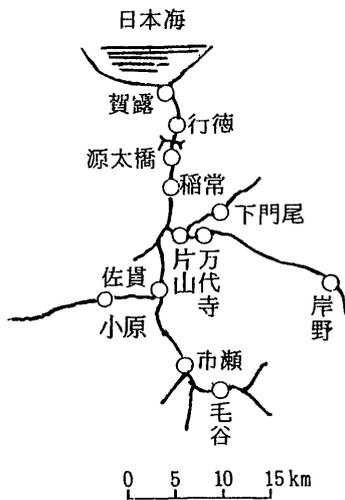
（注）各河川の水質経年変化、環境基準適合率の詳細については資料27を参照のこと。）

表51 測定結果

河川名	指定類型	地点名	測定日数	pH	DO (mg/l)	BOD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	6年度 BOD (mg/l)
千代川	A	賀露	12	7.2	9.2	1.5(1.9)	4	$7.9 \times 10^2 \sim > 2.4 \times 10^5$	2.1
	A	行徳	12	7.1	9.7	1.3(1.5)	6	$6.3 \times 10^2 \sim 1.5 \times 10^5$	1.4
	AA	源太橋	12	7.1	10	1.0(1.1)	3	$2.3 \times 10^2 \sim 2.3 \times 10^4$	1.4
	AA	稲常	12	7.2	10	1.0(1.2)	2	$7.0 \times 10^2 \sim 3.3 \times 10^4$	1.6
	AA	佐貫	11	7.3	11	1.4(1.3)	2	$3.3 \times 10^2 \sim > 2.4 \times 10^5$	1.6
	AA	市瀬	12	7.7	11	0.9(1.1)	4	$2.3 \times 10^2 \sim 9.5 \times 10^3$	0.8
	AA	毛谷	12	7.5	10	0.6(0.5)	2	$4.5 \times 10 \sim 4.9 \times 10^3$	0.7
八東川	-	片山	12	7.7	11	0.7(0.8)	7	$2.3 \times 10^2 \sim 2.4 \times 10^4$	1.1
	-	万代寺	12	7.8	11	0.8(0.9)	4	$7.8 \times 10 \sim 1.3 \times 10^4$	0.9
	-	岸野	12	7.6	10	0.6(0.6)	4	$4.5 \times 10 \sim 3.3 \times 10^3$	0.7
私都川	-	下門尾	12	7.7	11	0.8(0.9)	3	$2.3 \times 10^2 \sim 5.4 \times 10^4$	1.1
佐治川	-	小原	12	7.7	11	0.8(0.9)	3	$4.5 \times 10 \sim 2.4 \times 10^4$	0.8

()内は75%値

(測定地点図)
〔千代川〕



(BOD最大~最小)

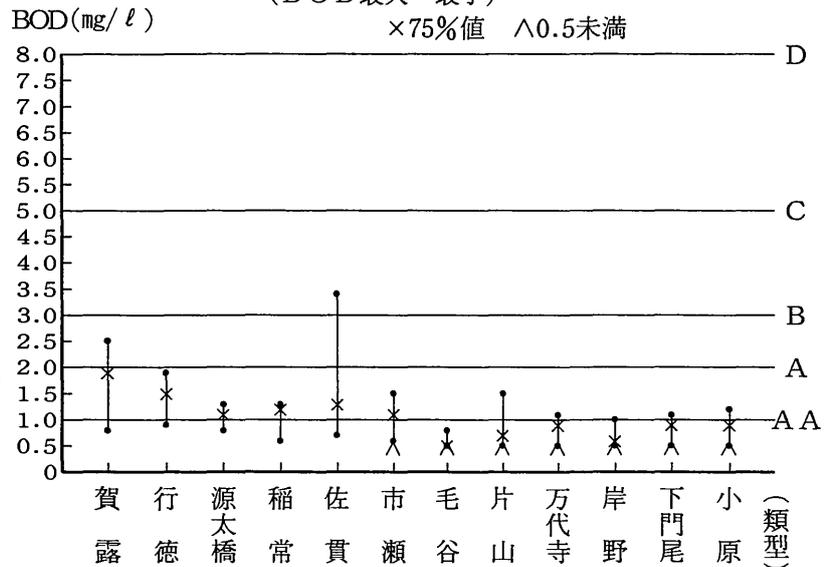


表52 経年変化

水域名	地点名	BOD年平均值 (mg/l)					
		H 2 年度	H 3 年度	H 4 年度	H 5 年度	H 6 年度	H 7 年度
千代川水系 千代川	賀露	0.9	0.9	➡ 1.2	1.2	➡ 2.1	⇨ 1.5
	行徳	1.1	0.9	➡ 1.0	1.0	➡ 1.4	⇨ 1.3
	源太橋	0.7	0.8	➡ 0.7	➡ 1.0	➡ 1.4	⇨ 1.0
	稲常	0.9	1.1	➡ 1.4	⇨ 0.9	➡ 1.6	⇨ 1.0
	佐貫	0.8	1.0	0.9	0.9	➡ 1.6	1.4
	市瀬	0.8	0.7	0.8	0.8	0.8	0.9
	毛谷	0.6	0.6	0.7	0.6	0.7	0.6
八東川	片山	0.8	0.7	0.8	0.7	➡ 1.1	⇨ 0.7
	万代寺	0.7	0.6	0.8	0.8	0.9	0.8
私都川 佐治川	岸野	0.6	0.5	0.8	0.7	0.7	0.6
	下門尾	0.9	⇨ 0.6	➡ 0.9	0.8	➡ 1.1	⇨ 0.8
佐治川	小原	0.8	0.6	➡ 0.9	0.9	0.8	0.8

(注) ⇨ 前年度に比べ良かったもの ➡ 前年度に比べ悪化したもの

○天神川水系

天神川は小鴨川合流点（河口から約7km上流）から上流は、河川類型AA、下流は類型Aの環境基準が定められており、BOD（75%値）でみれば5測定地点（類型AA水域3地点、A水域2地点）のうち、類型AAの1地点が基準に適合しておらず類型Aに相当している。BOD以外の項目の環境基準適合率をみると、類型AAの水域では、DO100%、SS100%、大腸菌群数0%、類型Aの水域で、DO100%、SS100%、大腸菌群数2.5%となっている。

各河川の水質の状況をBODで見れば、天神川（0.6~1.4mg/l）及び天神川に流入する小鴨川（0.6~1.1mg/l）、三徳川（0.7~0.8mg/l）とおおむね清浄である。

本水系の汚濁状況（BOD）を前年度と比較すると、一部地点を除きやや良くなっているが、経年的な水質の変化を見ると水系全体としてはほぼ同程度の水質で推移している。

表53 測定結果

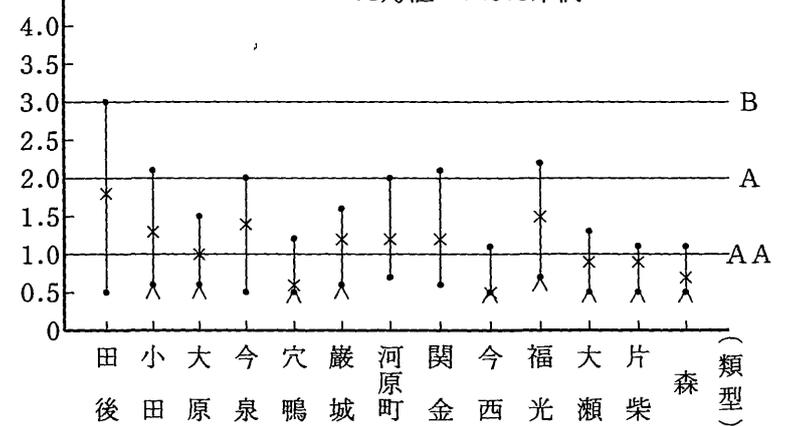
河川名	指定類型	地点名	測定日数	pH	DO (mg/l)	BOD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	6年度BOD (mg/l)	
天神川水系	A	田後	14	7.0	10	1.4(1.7)	5	$7.0 \times 10^2 \sim 7.9 \times 10^4$	1.1	
	A	小田	30	7.1	10	1.1(1.3)	4	$1.3 \times 10^3 \sim 7.9 \times 10^4$	1.1	
	AA	大原	14	7.2	11	0.9(1.0)	4	$1.7 \times 10^3 \sim 4.9 \times 10^4$	0.9	
	AA	今泉	14	7.2	11	1.1(1.3)	2	$3.3 \times 10^2 \sim 3.3 \times 10^4$	0.9	
	AA	穴鴨	12	7.5	11	0.6(0.6)	2	$2.3 \times 10^2 \sim 1.1 \times 10^4$	0.9	
	小鴨川	—	巖城	14	7.1	9.5	1.1(1.2)	4	$1.7 \times 10^3 \sim 7.9 \times 10^4$	1.2
		—	河原町	14	7.2	10	1.1(1.2)	2	$4.9 \times 10^2 \sim 4.9 \times 10^4$	1.2
		—	関金	14	7.2	10	1.1(1.2)	5	$7.0 \times 10^2 \sim 4.9 \times 10^4$	1.3
		—	今西	12	7.7	11	0.6(<0.5)	2	$4.5 \times 10 \sim 1.3 \times 10^4$	0.9
	国府川	—	福光	14	7.2	10	1.2(1.6)	8	$1.3 \times 10^3 \sim 7.9 \times 10^4$	1.3
	三徳川	—	大瀬	12	7.6	11	0.8(0.9)	2	$1.7 \times 10^3 \sim 5.4 \times 10^4$	0.9
		—	片柴	12	7.6	11	0.7(0.9)	2	$3.3 \times 10^2 \sim 2.2 \times 10^4$	0.8
加茂川	—	森	12	7.5	11	0.7(0.7)	2	$2.3 \times 10^2 \sim 5.4 \times 10^4$	0.9	

(測定地点図)
〔天神川〕



(BOD最大~最小)

BOD(mg/l)



()内は75%値

×75%値 △0.5未満

表54 経年変化

水域名	地点名	BOD年平均値 (mg/l)						
		H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度	
天神川水系	天神川	田後	1.1	1.3	1.2	1.0	1.1	➡ 1.4
		小田	1.2	1.1	0.9	0.8	➡ 1.1	1.1
		大原	1.2	⇨ 0.9	0.9	⇨ 0.6	➡ 0.9	0.9
		今泉	➡ 0.9	0.8	0.7	0.5	➡ 0.9	1.1
		穴鴨	0.7	0.9	0.7	0.5	➡ 0.9	⇨ 0.6
小鴨川	巖城	1.0	0.9	0.9	⇨ 0.6	➡ 1.2	1.1	
		河原町	0.9	1.0	0.8	0.6	➡ 1.2	1.1
		関金	➡ 1.1	1.0	0.8	0.6	➡ 1.3	1.1
三徳川	今西	0.7	0.8	0.7	0.5	➡ 0.9	⇨ 0.6	
		大瀬	0.9	1.0	0.9	⇨ 0.6	➡ 0.9	0.8
加茂川	森	0.7	0.8	0.8	0.6	0.8	0.7	
		0.8	0.8	0.7	0.6	➡ 0.9	0.7	

○日野川水系

日野川は日野橋（河口から約3km上流）から上流は河川類型AA、下流は類型Aの環境基準が定められており、BOD（75%値）でみれば8測定地点（類型AA水域6地点、A水域2地点）すべてが基準に適合している。BOD以外の項目の環境基準適合率をみると、類型AAの水域では、DO100%、SS100%、大腸菌群数0%である。また、類型Aの水域では、DO100%、SS100%、大腸菌群数は7.1%となっている。

この水系の水質の状況（BOD）は、日野川（0.6~1.1mg/l）及び法勝寺川（1.0mg/l）板井原川（0.6mg/l）とも、おおむね清浄な水質であるといえる。

水質の状況をBODで前年度と比較すると、日野川、法勝寺川及び板井原川は、前年度に比べてやや良くなっているが、経年的に見るとはほぼ同程度である。

表55 測定結果

水域名	指定類型	地点名	測定日数	pH	DO (mg/l)	BOD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	6年度BOD (mg/l)	
日野川水系	A	皆生	14	7.2	10	0.9(1.0)	5	$1.3 \times 10^3 \sim 1.4 \times 10^4$	1.4	
	A	車尾	31	7.2	11	1.1(1.2)	5	$6.8 \times 10^2 \sim 2.4 \times 10^4$	1.1	
	AA	八幡	14	7.4	11	0.9(1.0)	3	$5.0 \times 10^2 \sim 2.4 \times 10^4$	0.9	
	AA	溝口	14	7.2	11	0.9(1.0)	5	$1.1 \times 10^3 \sim 2.4 \times 10^4$	1.0	
	AA	武庫	12	7.7	11	0.7(0.9)	6	$3.3 \times 10^2 \sim 7.9 \times 10^3$	0.9	
	AA	下榎	12	7.6	11	0.7(0.8)	3	$1.3 \times 10^2 \sim 2.4 \times 10^4$	0.7	
	AA	生山	12	7.7	11	0.6(0.7)	4	$3.3 \times 10^2 \sim 3.3 \times 10^4$	1.0	
	AA	矢戸	12	7.6	11	0.6(0.6)	3	$1.1 \times 10^2 \sim 2.2 \times 10^4$	0.8	
	法勝寺川	—	福市	14	7.2	10	1.0(1.2)	7	$1.3 \times 10^3 \sim 2.4 \times 10^4$	1.6
	法勝寺川	—	法勝寺	14	7.3	11	1.0(1.1)	3	$1.1 \times 10^3 \sim 2.4 \times 10^4$	1.4
	板井原川	—	高尾	12	7.6	11	0.6(0.6)	2	$4.5 \times 10 \sim 1.3 \times 10^4$	0.6

() 内は75%値

(測定地点図)
〔日野川〕

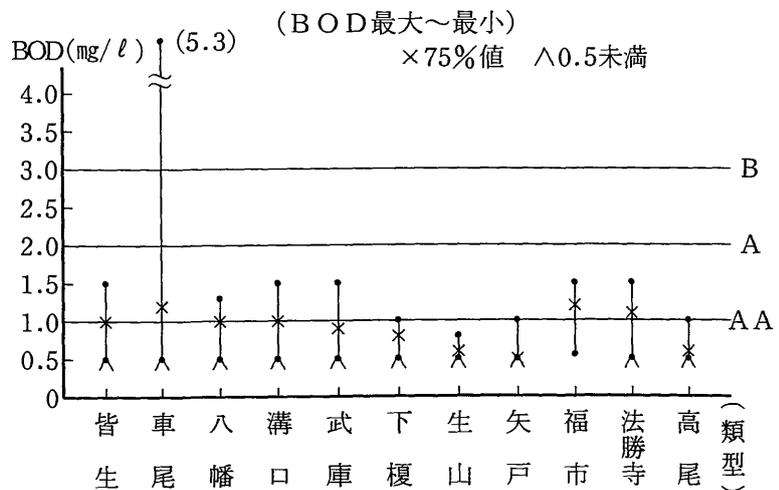
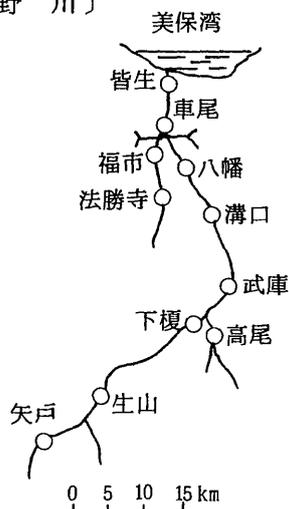


表56 経年変化

水 域 名	地 点 名	B O D 年 平 均 値 (mg/ℓ)					
		H 2 年 度	H 3 年 度	H 4 年 度	H 5 年 度	H 6 年 度	H 7 年 度
日 野 川 水 系 日 野 川	皆 生	1.1	0.8	0.9	0.7	➡ 1.4	⇨ 0.9
	車 尾	➡ 0.8	⇨ 0.7	0.7	0.7	➡ 1.1	1.1
	八 幡	0.6	⇨ 0.8	0.7	0.7	➡ 0.9	0.8
	溝 口	0.6	0.8	0.7	0.7	➡ 1.0	0.9
	武 庫	0.5	0.9	0.7	0.6	➡ 0.9	0.7
	下 榎	0.6	➡ 0.7	0.6	0.7	0.7	0.7
	生 山	0.6	0.7	0.6	0.6	➡ 1.0	⇨ 0.6
	矢 戸	0.5	0.6	0.6	0.5	➡ 0.8	0.6
法 勝 寺 川	福 市	1.1	1.1	1.1	1.1	➡ 1.6	⇨ 1.0
	法 勝 寺	1.2	1.1	1.2	0.9	➡ 1.4	⇨ 1.0
板 井 原 川	高 尾	0.5	0.7	0.5	⇨ 0.6	0.6	0.6

(イ) 都市河川

旧袋川（鳥取市）の水質は、BOD（75%値）1.6~3.2mg/ℓ（河川類型A~C相当）であり、前年度の測定結果と比べると良くなっている。

玉川（倉吉市）は、上流部の八幡町（0.6mg/ℓ）を除いて2.8~13mg/ℓ（河川類型AA~Eより悪い相当）と依然として汚濁しており、中でも宮川町、西仲町、余戸谷町の汚濁が著しいが、前年度と比較するとやや良くなっている。

旧加茂川（米子市）は1.7~2.2mg/ℓ（河川類型A~B相当）と前年度と比較してやや良くなっている。

これらの都市河川の経年変化（平成2年度~平成7年度）を見ると、旧袋川はほぼ同程度、玉川もほぼ同程度、旧加茂川は近年やや良くなっている。

表57 測定結果

河川名	指 定 類 型	地 点 名	測 定 日 数	pH	D O (mg/ℓ)	B O D (mg/ℓ)	S S (mg/ℓ)	大 腸 菌 群 数 (MPN/100 ml)	6 年 度 B O D (mg/ℓ)
旧 袋 川	—	浜 坂	12	6.9	7 5	2.7(3.2)	9	3 3×10 ³ ~ >2 4×10 ⁵	4 1
	—	弁 天 橋	12	7.2	8 3	1.8(2.2)	13	1 1×10 ³ ~ 7 9×10 ⁴	3.1
	—	丸 山	12	7.2	8 6	1.9(2.4)	7	1 1×10 ³ ~ 1 7×10 ⁵	5.0
	—	出 合 橋	21	7.1	9 0	3.8(1.8)	12	2 3×10 ² ~ 2 4×10 ⁵	3.0
	—	若 桜 橋	12	7.4	9.4	1.9(2.2)	13	1.3×10 ³ ~ 7.9×10 ⁴	2.2
	—	吉 方 橋	20	7.3	9.6	2.1(2.5)	11	5.0×10 ³ ~ >2.4×10 ⁵	2.8
	—	三 洋 大 橋	6	7.2	10	1.3(1.6)	4	1 3×10 ³ ~ >2 4×10 ⁵	1.7
玉 川	—	巖 城	12	7.0	9 2	2.5(2.8)	7	7 0×10 ³ ~ 1 4×10 ⁵	3 1
	—	宮 川 町	12	7 3	9 0	8.9(9.2)	12	2 4×10 ⁴ ~ >2 4×10 ⁵	5 9
	—	西 仲 町	12	7 3	8 8	6.4(6.3)	13	4 9×10 ⁴ ~ >2 4×10 ⁵	4.1
	—	余 戸 谷 町	12	7.3	9.1	13(13)	23	4.9×10 ³ ~ >2.4×10 ⁵	9.9
	—	八 幡 町	12	7.5	10	0.6(0.6)	2	1 7×10 ² ~ 2 4×10 ⁴	0 9
旧 加 茂 川	—	灘 町 橋	12	7 3	9 0	1.6(1.7)	10	2 1×10 ³ ~ 7 9×10 ⁴	1 9
	—	天 神 橋	12	7 4	9 5	1 9(2.2)	12	3 3×10 ³ ~ 1 3×10 ⁵	3 9
	—	旭 橋	12	7 4	10	2.0(2.1)	11	2 3×10 ³ ~ 1 1×10 ⁵	3 3
	—	土 橋	12	7.4	9 9	2.0(2.0)	15	4 9×10 ³ ~ 2 2×10 ⁵	3 9
	—	加 茂 川 橋	12	7.3	9 8	2.1(2.2)	8	3 3×10 ³ ~ 1 1×10 ⁵	2 5

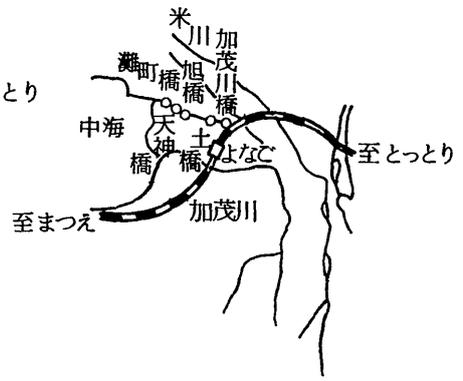
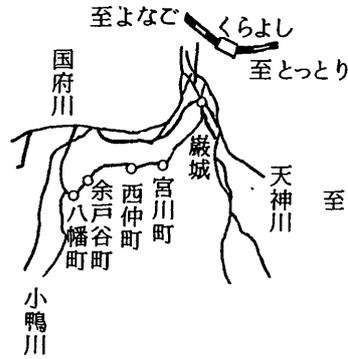
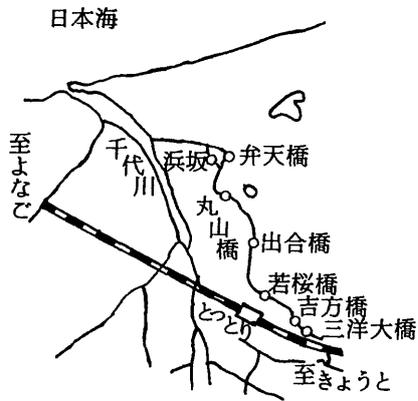
() 内は75%値

(測定地点図)

〔旧袋川〕

〔玉川〕

〔旧加茂川〕



(BOD最大~最小値)

×75%値

△0.5未満

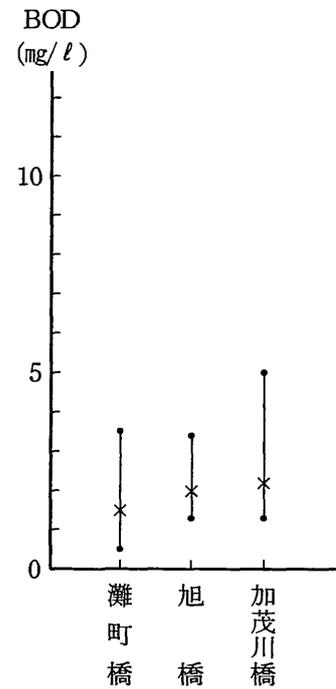
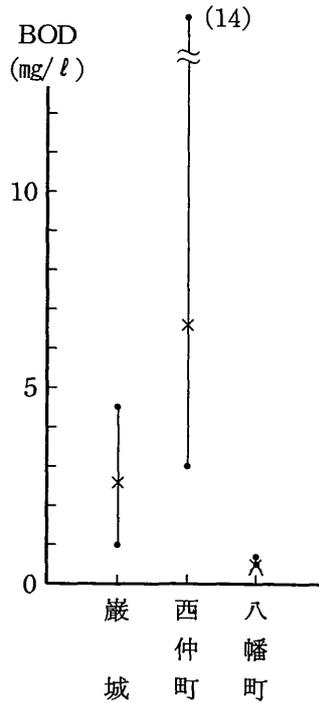
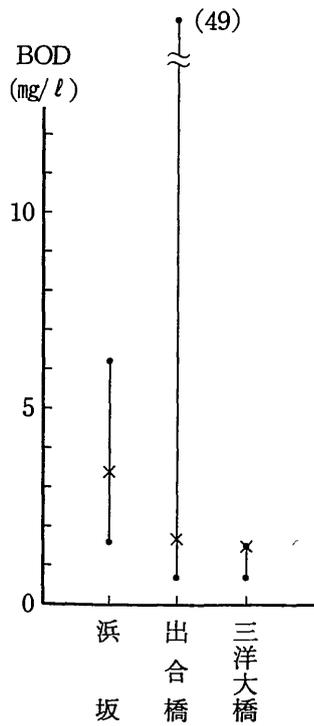


表58 経年変化

水域名	地点名	BOD年平均値 (mg/l)					
		H 2 年度	H 3 年度	H 4 年度	H 5 年度	H 6 年度	H 7 年度
旧袋川	7 地点	2.1~3.7	1.7~3.1	1.6~3.0	⇒1.5~2.2	⇒1.7~5.0	⇒1.3~3.8
玉川	5 地点	⇒1.0~23	⇒0.9~17	⇒0.9~11	⇒0.7~15	0.9~9.9	0.6~13
旧加茂川	5 地点	⇒2.4~4.1	2.4~4.9	⇒1.6~3.2	1.7~3.7	1.9~3.9	⇒1.6~2.1

(ウ) 二級河川

県内の主要二級河川8河川について、それぞれ各3地点の測定結果を見ると、蒲生川、塩見川、河内川、加勢蛇川、阿弥陀川、佐陀川はBOD(75%値)で見ると河川類型AA~Aに相当し、おおむね清浄な水質であり他の河川も一部の地点を除きおおむね清浄な水質を維持している。

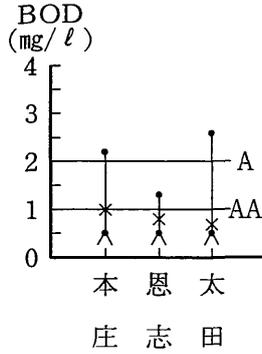
各河川の水質について、前年度と比較すると、全般に良くなっているが、経年的に見るとほぼ同程度である。

表59 測定結果

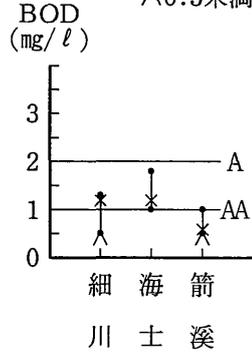
河川名	指定 類型	地点名	測定 日数	pH	DO (mg/l)	BOD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	6年度 BOD (mg/l)
蒲生川	—	本庄	4	7.3	7.6	1.0(1.0)	22	$4.9 \times 10^2 \sim 3.3 \times 10^4$	2.7
	—	恩志	4	7.4	10	0.9(0.9)	15	$1.1 \times 10^3 \sim 1.3 \times 10^4$	1.0
	—	太田	4	7.3	8.2	1.1(0.7)	10	$1.3 \times 10^2 \sim 2.8 \times 10^4$	2.0
塩見川	—	細川	4	7.3	8.8	1.0(1.3)	10	$1.7 \times 10^3 \sim 4.6 \times 10^4$	1.2
	—	海士	4	7.1	6.2	1.3(1.2)	8	$2.3 \times 10^3 \sim 7.9 \times 10^4$	2.0
	—	箭溪	4	7.4	10	0.7(0.6)	6	$4.5 \times 10 \sim 4.9 \times 10^4$	1.2
河内川	—	宝木	4	7.1	9.5	1.0(0.9)	5	$1.1 \times 10^3 \sim 2.4 \times 10^4$	3.0
	—	宿	4	7.3	10	0.7(0.6)	3	$7.8 \times 10 \sim 1.8 \times 10^5$	1.3
	—	来日	4	7.5	10	0.5(0.5)	2	$7.8 \times 10 \sim 4.9 \times 10^3$	0.6
勝部川	—	青谷	10	7.1	8.7	2.4(2.7)	7	$2.3 \times 10^3 \sim > 2.4 \times 10^5$	2.5
	—	吉川	4	7.3	10	0.6(0.6)	6	$4.9 \times 10^2 \sim 4.9 \times 10^4$	0.9
	—	善田	10	7.2	10	2.0(2.1)	9	$2.3 \times 10^2 \sim 1.3 \times 10^5$	2.0
由良川	—	瀬戸	4	6.9	7.9	1.3(1.5)	9	$3.3 \times 10^2 \sim 2.4 \times 10^4$	2.4
	—	穴沢	4	7.1	9.3	1.4(1.6)	7	$1.1 \times 10^3 \sim 3.3 \times 10^4$	1.7
	—	東亀谷	4	7.3	9.1	2.1(2.6)	3	$1.1 \times 10^4 \sim 2.4 \times 10^4$	2.1
加勢蛇川	—	上伊勢	4	7.7	11	0.7(0.8)	4	$4.9 \times 10^2 \sim > 2.4 \times 10^5$	1.1
	—	八反田	4	7.6	10	0.7(0.7)	9	$2.2 \times 10^2 \sim 7.0 \times 10^3$	1.2
	—	三本杉	4	7.3	10	0.6(0.7)	3	$1.3 \times 10^2 \sim 3.3 \times 10^3$	1.0
阿弥陀川	—	所子	4	7.7	11	0.9(0.7)	2	$2.0 \times 10 \sim 1.1 \times 10^4$	1.3
	—	坊領	4	7.6	10	0.8(0.5)	3	$2.3 \times 10^2 \sim 7.0 \times 10^3$	1.2
	—	前	4	7.6	10	0.9(0.8)	4	$2.0 \times 10 \sim 7.9 \times 10^3$	1.2
佐陀川	—	佐陀	4	7.6	11	1.2(1.1)	10	$3.3 \times 10^2 \sim 7.9 \times 10^4$	1.4
	—	吉長	4	7.2	10	0.8(1.1)	5	$4.9 \times 10^2 \sim 3.3 \times 10^4$	1.2
	—	福万	4	7.7	10	0.6(0.6)	9	$2.3 \times 10^2 \sim 4.9 \times 10^4$	1.2

()内は75%値

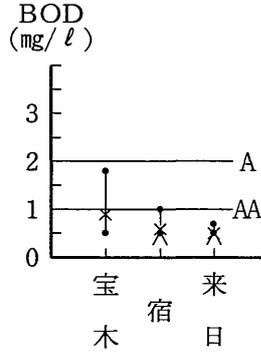
(測定地点図)
〔蒲生川〕 〔塩見川〕



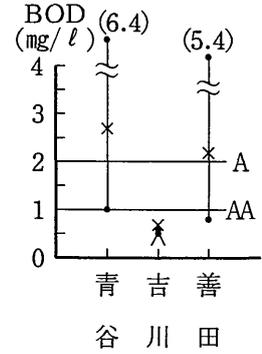
(BOD最大~最小値)
×75%値
△0.5未満



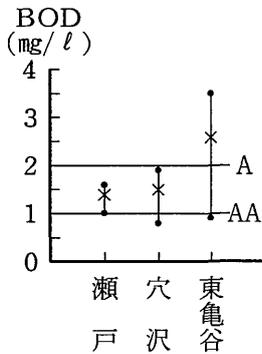
〔河内川〕



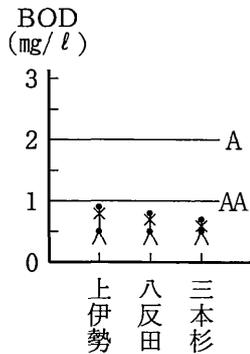
〔勝部川〕



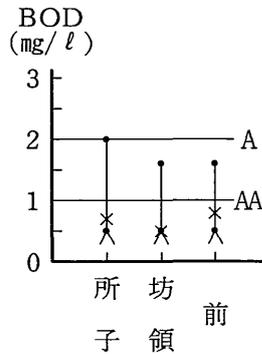
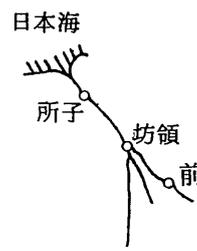
〔由良川〕



〔加勢蛇川〕



〔阿弥陀川〕



〔佐陀川〕

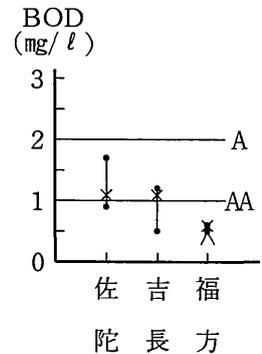
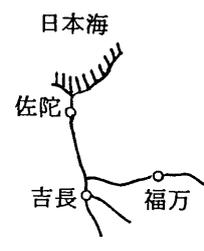


表60 経年変化

水域名	地点名	BOD 年平均值 (mg/l)					
		H 2 年度	H 3 年度	H 4 年度	H 5 年度	H 6 年度	H 7 年度
蒲生川	3 地点	0.8~1.1	0.7~0.9	0.9~1.6	1.0~1.3	1.0~2.7	0.9~1.1
塩見川	"	0.7~1.0	0.7~1.6	0.7~2.1	1.3~1.6	1.2~2.0	0.7~1.3
河内川	"	0.5~1.3	0.6~0.8	0.6~1.3	0.6~1.1	0.6~3.0	0.5~1.0
勝部川	"	0.7~2.3	0.7~1.3	0.8~1.7	0.7~1.6	0.9~2.5	0.6~2.4
由良川	"	2.6~3.4	1.4~2.3	1.4~2.0	1.5~2.5	1.7~2.4	1.3~2.1
加勢蛇川	"	0.8~1.2	0.5~1.0	0.5~0.8	0.5~0.9	1.0~1.2	0.6~0.7
阿弥陀川	"	0.6~0.9	0.5	<0.5~0.8	<0.5~0.5	1.2~1.3	0.8~0.9
佐陀川	"	0.9~1.2	0.6~0.9	0.5~0.7	<0.5~0.6	1.2~1.4	0.6~1.2

イ 湖 沼

(ア) 湖 山 池

湖山池は、環境基準の湖沼類型Aが定められているが、COD (75%値) は7.9~8.6mg/lと4地点とも環境基準に適合しておらず、類型C~Cより悪いに相当している。その他の項目について環境基準適合率をみると、DO87.5%、SS33.3%、大腸菌群数66.7%となっている。COD、全窒素 (T-N)、全磷 (T-P) について前年度の水質と比較するとやや良くなっているが、経年的に見るとほぼ同程度である。

表61 測定結果

地点番号 及び地点名	測定 日数	pH	DO (mg/l)	COD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	全窒素 (mg/l)	全磷 (mg/l)	6年度 COD (mg/l)
①布勢地先	12	8.0	9.9	7.2 (8.4)	12	2.8×10^2 ~ 3.3×10^3	1.0	0.086	8.2
②堀越地先	12	8.0	9.6	6.5 (8.6)	11	2.3×10^2 ~ 2.4×10^3	0.93	0.077	7.8
③中央部	12	8.1	9.7	6.3 (8.6)	11	2.3×10^2 ~ 9.5×10^2	0.87	0.065	7.8
④松原地先	12	8.1	10	6.4 (7.9)	10	3.3×10^2 ~ 2.9×10^3	0.82	0.067	7.7



() 内は75%値

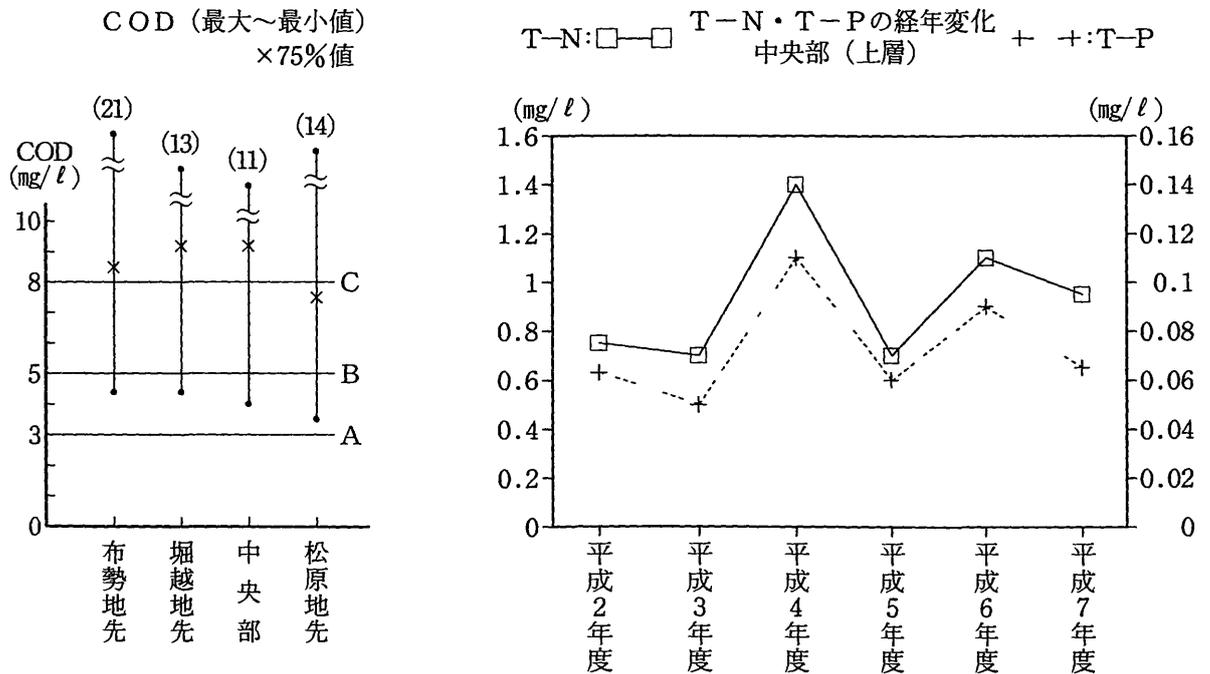


表62 経年変化

水 域 名	地 点 名	C O D 年 平 均 値 (mg/l)					
		H 2 年 度	H 3 年 度	H 4 年 度	H 5 年 度	H 6 年 度	H 7 年 度
湖 山 池	4 地 点	5.2~5.5	5.0~6.0	→6.8~7.8	⇒5.2~5.7	→7.7~8.2	⇒6.3~7.2

(イ) 多鯰ヶ池

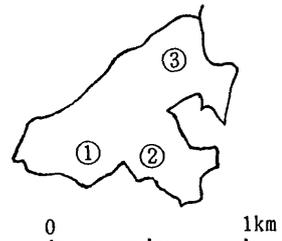
多鯰ヶ池は、環境基準の類型指定がなされていないが、COD (75%値) で見ると3.3~3.6 mg/lと湖沼類型Bに相当している。

水質は、CODで比較すると前年度と同程度であるが、経年的に見るとやや良くなっている。湖内の3地点の全窒素 (T-N) 及び全磷 (T-P) はそれぞれ0.57~0.58mg/l 及び0.010~0.011mg/lである。

表63 測定結果

地点番号及び地点名	測定日数	pH	DO (mg/l)	COD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	全窒素 (mg/l)	全磷 (mg/l)	6年度COD (mg/l)
① 西部	4	6.6	7.9	3.2 (3.6)	2	1.9 ~6.7×10 ²	0.58	0.010	3.5
② 東南部	4	6.7	8.3	3.2 (3.3)	2	1.9 ~3.3×10 ²	0.58	0.010	3.2
③ 北部	4	6.7	8.7	3.4 (3.3)	2	3.3 ~3.3×10 ³	0.57	0.011	3.3

(測定地点図)



() 内は75%値

COD (最大~最小値) ×75%値

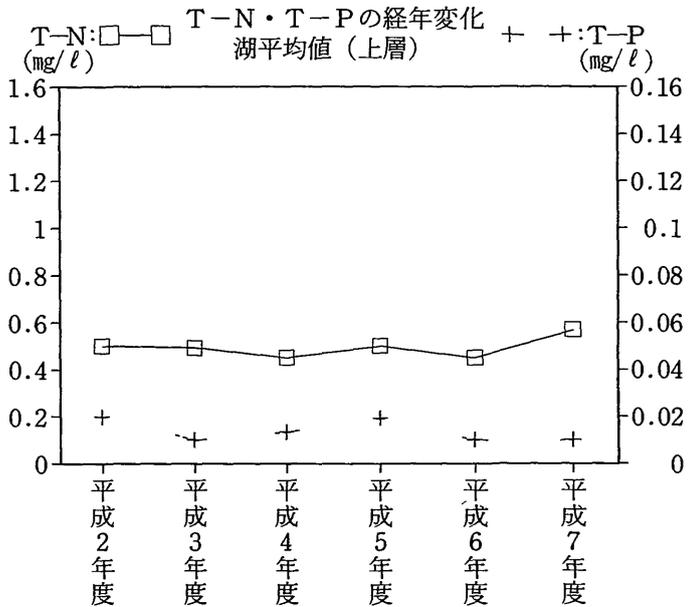
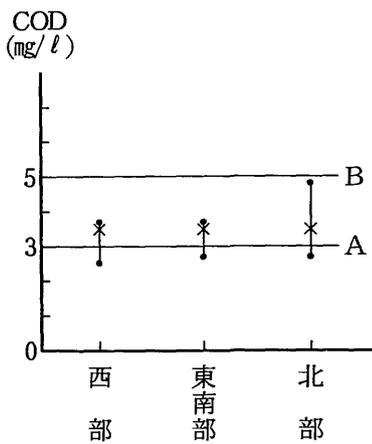


表64 経年変化

水域名	地点名	COD年平均値 (mg/l)					
		H 2年度	H 3年度	H 4年度	H 5年度	H 6年度	H 7年度
多鯰ヶ池	3地点	3.8~4.6	3.9~4.3	4.0~5.1	4.2~5.1	3.2~3.5	3.2~3.4

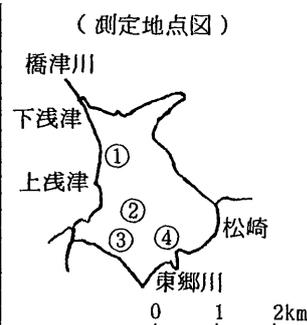
(ウ) 東郷池

東郷池は、環境基準の湖沼類型Aが定められているが、COD (75%値) でみると、5.5~6.0mg/lと4地点とも環境基準に適合しておらず、類型C相当と汚濁している。また、その他の項目の環境基準適合率は、DO89.6%、SS22.9%及び大腸菌群数83.3%となっている。

本湖の水質は、湖全体でほとんど均一であり、前年度と比較するとやや悪化した経年的に見るとほぼ同程度である。また、全窒素 (T-N) 及び全磷 (T-P) についてみるとそれぞれ0.84~0.87mg/l 及び0.062~0.066mg/lと富栄養化している。

表65 測定結果

地点番号 及び地点名	測定 日数	pH	DO (mg/l)	COD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	全窒素 (mg/l)	全 磷 (mg/l)	6年度 COD (mg/l)
①下浅津地先	12	8.2	10	5.2 (6.0)	8	4.9×10 $\sim 2.9 \times 10^3$	0.84	0.063	4.3
②中央部	12	8.1	9.9	5.2 (5.9)	7	2.8×10 $\sim 8.9 \times 10^3$	0.84	0.066	4.2
③野花地先	12	8.0	9.9	5.1 (5.7)	8	4.9×10 $\sim 1.4 \times 10^3$	0.86	0.064	4.3
④松崎地先	12	8.1	9.8	5.0 (5.5)	7	4.9×10 $\sim 2.8 \times 10^3$	0.87	0.062	4.1



() 内は75%値

COD (最大~最小値)
×75%値

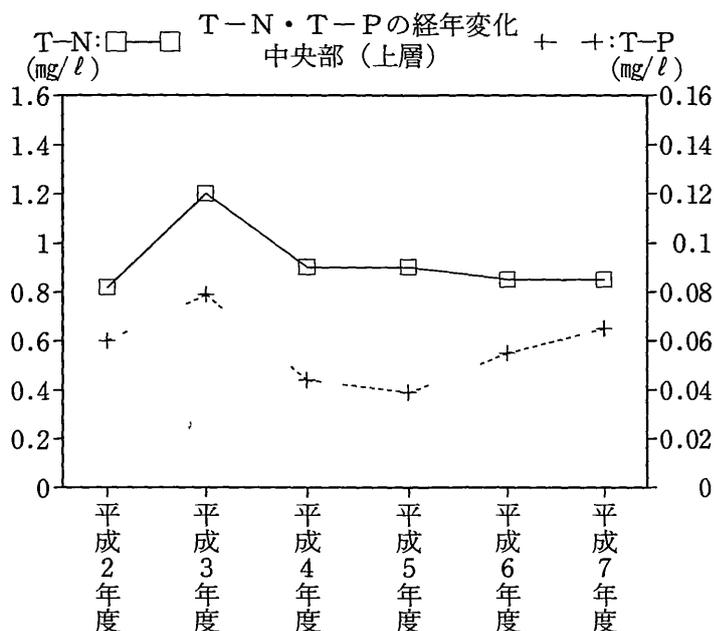
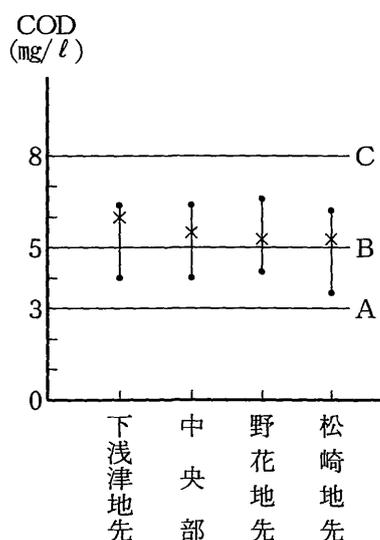


表66 経年変化

水 域 名	地 点 名	COD年平均值 (mg/l)					
		H 2 年度	H 3 年度	H 4 年度	H 5 年度	H 6 年度	H 7 年度
東 郷 池	4 地点	4.5~4.6	⇒4.9~5.6	⇒4.2~4.5	⇒3.6~3.7	4.1~4.3	⇒5.0~5.2

(二) 中 海

中海は湖沼類型Aの環境基準が定められている。鳥取県水域について4地点のCOD (75%値)で見ると、境水道中央部 (2.8mg/l)、葭津地先 (4.0mg/l)、米子湾中央部 (6.0mg/l)、渡町地先 (3.0mg/l) はいずれも類型A~C相当となっている。他の項目の環境基準適合率を見ると、DO53.0%、SS69.7%、大腸菌群数76.0%となっている。

前年度の水質との比較をCODについて見ると、やや良くなっている。

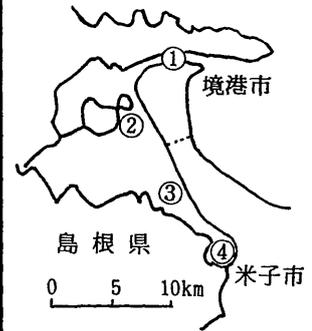
全窒素 (T-N) について3環境基準地点を見ると、類型IIIの環境基準に対し、IV~V相当で基準を満足していない。

又、同様に全磷について3環境基準地点を見ると、類型IIIの環境基準に対し、IV~V相当で基準を満足していない。

表67 測定結果

地点番号 及び地点名	測定 日数	pH	DO (mg/l)	COD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	全窒素 (mg/l)	全 磷 (mg/l)	6年度 COD (mg/l)
① 境水道 中央部	20	8.2	7.9	2.4 (2.8)	6	1.3×10^3 ~ 9.2×10^3	*0.42	0.041	2.9
② 渡町地先	12	8.0	7.1	2.9 (3.0)	6	2.0 ~ 1.6×10^4	0.51	0.041	3.2
③ 葭津地先	20	8.1	6.5	3.6 (4.0)	6	2.9 ~ 9.2×10^3	*0.48	0.047	4.1
④ 米子湾 中央部	20	8.4	9.2	5.1 (6.0)	9	2.2×10^3 ~ 2.4×10^4	*0.76	0.085	5.2

(測定地点図)



() 内は75%値

COD (最大~最小値)
×75%値

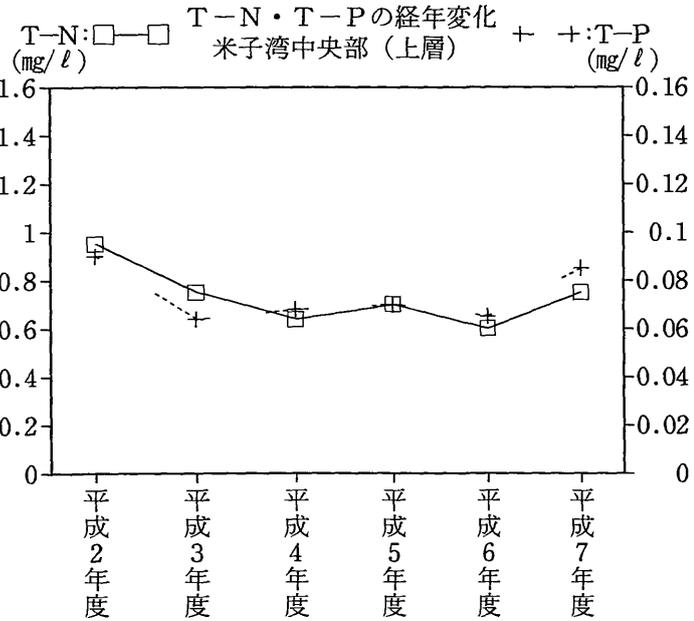
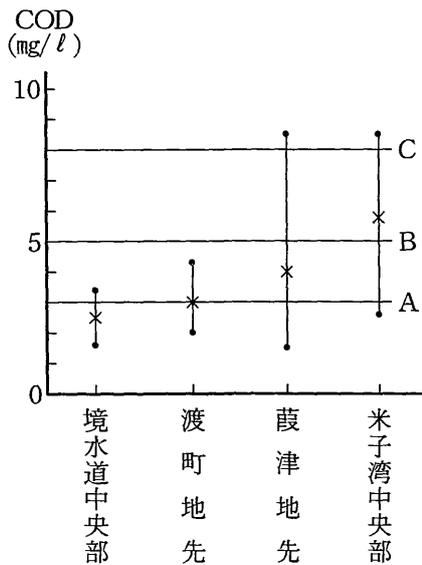
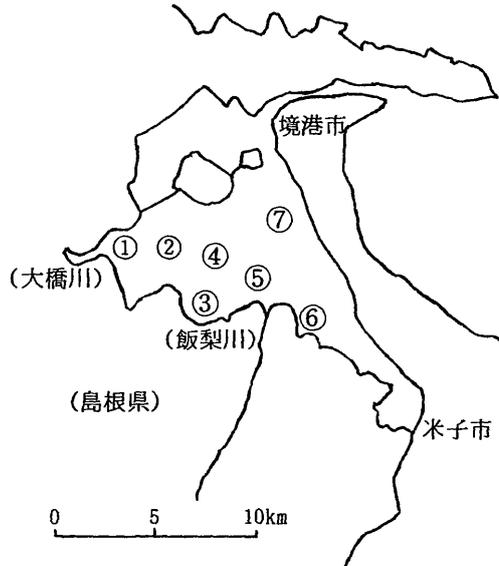


表68 経年変化

水 域 名	地 点 名	COD 年平均値 (mg/l)					
		H 2 年度	H 3 年度	H 4 年度	H 5 年度	H 6 年度	H 7 年度
中 海	4 地点	2.5~5.7	2.5~5.3	2.3~4.9	2.8~4.7	2.9~5.2	2.4~5.1

(H4年度までは小篠津町地先を含む5地点の値。)

〈参考〉 中海島根県水域の測定結果（建設省及び島根県測定）



地点番号 及び地点名	測定 日数	pH	DO (mg/l)	COD (mg/l)	SS (mg/l)	6年度 COD (mg/l)
①大橋川 河口地先	15	8.0	7.4	4.6 (4.9)	6	5.3
②意東鼻 地先	15	8.1	7.7	4.8 (5.0)	7	5.2
③羽入川 河口地先	24	8.2	7.7	4.8 (5.1)	6	5.2
④中海 中央部	24	8.2	7.0	4.4 (4.5)	5	5.2
⑤飯梨川 河口地先	24	8.1	7.5	4.4 (4.8)	5	5.0
⑥安来港 地先	24	8.2	7.7	5.5 (5.4)	8	4.9
⑦小篠津町 地先	12	8.3	8.0	3.6 (4.1)	4	3.9

() 内は75%値

〈参考〉 諏訪湖、霞ヶ浦、琵琶湖及び児島湖の環境基準のあてはめ並びに水質汚濁状況との比較

水域名	都道府県	類型指定 年月日	指定類型		達成期間	COD測定値 (mg/l) : 平均値				
			湖沼 類型	COD		測定箇所	平成 4年度	平成 5年度	平成 6年度	平成 7年度
諏訪湖	長野	46 5 25	A	3mg/l以下	5年を超える期間 で可及的速やかに	湖心	4.8 (4.8)	3.5 (3.9)	7.1 (6.2)	4.6 (5.3)
霞ヶ浦	茨城	47 11 6	A	3mg/l以下	5年を超える期間 で可及的速やかに	"	7.5 (8.3)	8.3 (8.6)	8.4 (8.7)	9.0 (9.4)
琵琶湖 (北湖)	滋賀	47 4 6	AA	1mg/l以下	直ちに達成	北湖 (小)	2.4 (2.5)	2.2 (2.5)	2.5 (2.9)	2.4 (2.6)
" (南湖)	"	"	"	"	5年を超える期間 で可及的速やかに	南湖 (唐崎)	3.0 (3.5)	2.8 (2.9)	4.4 (3.8)	3.0 (3.2)
児島湖	岡山	46 5 25	B	5mg/l以下	"	湖心	8.8 (9.4)	8.5 (9.8)	10 (11)	10 (11)
湖山池	鳥取	46.9 14	A	3mg/l以下	5年以内で可及的 速やかに	"	7.8 (9.1)	5.2 (5.8)	7.8 (9.5)	6.3 (8.6)
東郷池	"	"	"	"	"	"	4.4 (5.7)	3.6 (4.3)	4.2 (5.0)	5.2 (5.9)
中海	"	47 10 31	"	"	"	境水道 中央部	2.6 (2.9)	2.8 (3.2)	2.9 (3.4)	2.4 (2.8)
"	"	"	"	"	"	米子湾 中央部	4.9 (5.2)	4.7 (5.6)	5.2 (5.9)	5.1 (6.0)

() 内は75%値

ウ 海 域

(ア) 美保湾

美保湾のうち、境港外港港湾計画水域（地点番号②）は、海域類型B、その他の水域は類型Aの基準が定められている。水質の状況をCOD（75%値）で見ると、測定地点8地点すべて環境基準に適合している。そのほかの項目の環境基準適合率をみると、類型A水域ではDO83.3%、油分100%、大腸菌群数98.8%、類型B水域ではDO、油分とも100%の適合率である。

水質の変化を見ると、前年度に比べて、ほぼ同程度であり 経年的に見ても同程度の水質で

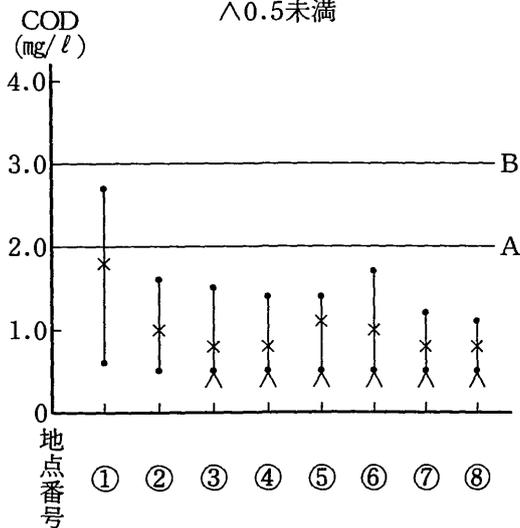
推移している。

表69 測定結果

調査地点番号 及び地点名	指定 類型	測定 日数	pH	DO (mg/l)	COD (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	油分 (mg/l)	6年度 COD (mg/l)
① 境港市昭和町防波堤 燈台の北方0.2km	A	12	8.3	8.5	1.7 (1.8)	$<1.8\sim4.6\times 10^2$	ND	2.1
② 境港市福定町地先 沖合1.0km	B	12	8.2	8.1	0.9 (1.0)	$<1.8\sim9.4\times 10$	ND	1.2
③ 境港市福定町地先 東方4.0km	A	12	8.3	8.3	0.8 (0.8)	$<1.8\sim1.1\times 10^2$	ND	0.9
④ 米子市大篠津町地先 沖合0.5km	A	12	8.3	8.2	0.8 (0.9)	$<1.8\sim1.6\times 10$	ND	0.9
⑤ 米子市皆生地先 0.5km	A	12	8.3	8.3	0.9 (1.1)	$<1.8\sim8.1\times 10$	ND	0.8
⑥ 日野川河口地先 北方1.0km	A	12	8.3	8.3	0.9 (1.1)	$<1.8\sim8.0\times 10^2$	ND	1.0
⑦ 日野川河口地先 北東方1.0km	A	12	8.3	8.2	0.8 (1.0)	$<1.8\sim8.0\times 10^2$	ND	1.1
⑧ 淀江町佐陀地先 0.5km	A	12	8.3	8.2	0.8 (1.0)	$<1.8\sim1.2\times 10^3$	ND	1.0

() 内は75%値 ND 検出されず

(COD最大~最小値)
×75%値
△0.5未満



(測定地点図)

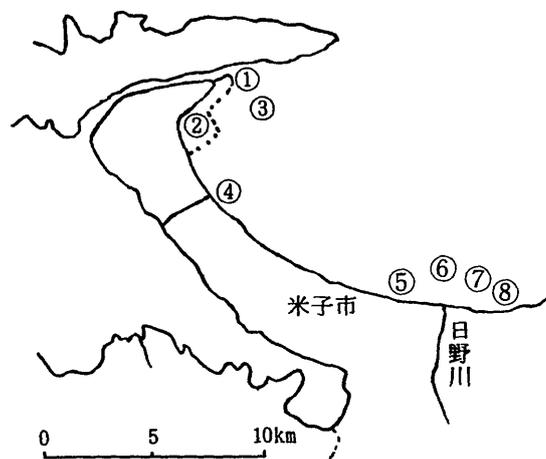


表70 経年変化

水 域 名	地 点 名	COD年平均値 (mg/l)					
		H 2 年度	H 3 年度	H 4 年度	H 5 年度	H 6 年度	H 7 年度
美 保 湾	8 地点	1.3~2.0	1.4~2.1	1.3~2.1	1.0~1.7	0.8~2.1	0.8~1.7

(イ) 日本海沿岸海域

日本海沿岸海域は、海域類型Aの環境基準が定められている。水質測定は、距岸1kmの8地点で行ったが、8地点のCOD(75%値)は0.9~1.4mg/lですべて環境基準に適合している。また、本海域では油分も不検出であり 清浄な水質を維持している。

平成7年度に開設された19海水浴場について各3回ずつ水質調査を行った結果、八橋海水浴場を除く18海水浴場は透明度1m以上、COD2.0mg/l以下、ふん便性大腸菌群数50個/100ml以下、油分NDとすべて「鳥取県海水浴場整備促進要綱」で定める水質基準に適合しており環境庁の海水浴場判定基準の水質AA~A(水質が特に良好な水浴場~水質が良好な水浴場)となっている。

なお、八橋海水浴場は県要綱の水質基準のうちCODのみ適合せず、環境庁の海水浴場水質判定基準の水質B(水質が適当な水浴場)となっている。

表71 測定結果

調査地点名	指定 類型	測定 日数	pH	DO (mg/l)	COD (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	油分 (mg/l)	6年度 COD (mg/l)
岩美町浦富地先 1.0 km	A	3	8.1	7.4	0.9(1.1)	<1.8~3.3×10	ND	0.5
福部村湯山地先 1.0 km	A	3	8.2	7.5	1.0(1.3)	<1.8~7.9×10	ND	0.7
鳥取市堀越地先 1.0 km	A	3	8.2	7.4	0.8(0.9)	<1.8	ND	0.5
気高町八幡地先 1.0 km	A	3	8.2	7.5	0.7(0.9)	<1.8~1.3×10 ²	ND	0.6
泊村泊地先 1.0 km	A	3	8.2	7.5	0.9(1.1)	<1.8~4.5	ND	0.5
北条町松神地先 1.0 km	A	3	8.2	7.5	0.8(1.0)	2.0~1.3×10	ND	0.6
大栄町大谷地先 1.0 km	A	3	8.2	7.5	0.8(1.2)	<1.8	ND	<0.5
中山町御崎地先 1.0 km	A	3	8.2	7.5	1.1(1.4)	<1.8~2.0	ND	0.7

()内は75%値 ND 検出されず

表72 経年変化

水域名	地点名	COD年平均値 (mg/l)					
		H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度
日本海沿岸	8地点	0.5~1.0	0.8~1.1	0.9~1.4	0.5~1.0	0.5~0.7	0.7~1.1

表73 海水浴場水質調査結果

海水浴場名	採水地点数	採水回数	測定項目			
			透明度 (m)	pH	COD (mg/l)	ふん便性大腸菌群数 (個/100ml)
東浜海水浴場	6	3	>1	8.1~8.3	0.8~1.7	<2
小羽尾海水浴場	3	"	>1	8.1~8.3	1.1~1.7	<2
羽尾海水浴場	3	"	>1	8.1~8.3	0.9~1.6	<2
牧谷海水浴場	3	"	>1	8.1~8.3	1.0~1.7	<2
浦富海水浴場	5	"	>1	8.1~8.3	1.0~1.9	<2
大谷海水浴場	開設せず	-	-	-	-	-
岩戸海水浴場	3	3	>1	8.1~8.3	1.2~1.7	<2
砂丘海水浴場	3	"	>1	8.2~8.3	1.1~1.3	<2
賀露海水浴場	3	"	>1	8.1~8.3	1.3~1.5	<2
白兔海水浴場	4	"	>1	8.1~8.3	1.4~1.5	<2
小沢見海水浴場	2	"	>1	8.1~8.3	1.3~1.6	<2
水尻海水浴場	2	"	>1	8.1~8.3	0.8~1.1	<2
浜村海水浴場	3	"	>1	8.1~8.3	0.5~1.2	<2
浜村西海岸海水浴場	開設せず	-	-	-	-	-
青谷海水浴場	2	3	>1	8.2~8.3	1.0~1.7	<2
井手ヶ浜海水浴場	4	"	>1	8.2~8.3	0.9~1.4	<2
パームビーチミナセ	開設せず	-	-	-	-	-
小浜海水浴場	開設せず	-	-	-	-	-
石脇海水浴場	3	3	>1	8.2~8.3	0.5~1.5	<2
宇谷海水浴場	開設せず	-	-	-	-	-
宇野海水浴場	3	3	>1	8.2~8.3	<0.5~1.7	<2~3
ハワイ海水浴場	3	"	>1	8.2~8.3	0.7~1.9	<2~5
八橋海水浴場	3	"	>1	8.2~8.3	0.9~6.3	<2~40
皆生温泉海水浴場	2	"	>1	8.5~8.7	0.8~1.7	<2

(日本海沿岸海域測定地点図)

